

● 日本の主な火山活動

御嶽山では、火山活動が低下してきていることから、19 日に噴火警戒レベル 3（入山規制）を切り替え、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石の飛散と火砕流に対する警戒が必要な範囲を火口から概ね 3 km の範囲に縮小した。

桜島では、爆発的噴火が発生するなど活発な噴火活動が継続した。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要である。

口永良部島では噴火は発生しなかった。火山ガスは多い状態で経過し、引き続き火山活動は高まった状態で経過している。新岳火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。向江浜地区から新岳の南西にかけて、火口から海岸までの範囲では火砕流に警戒が必要である。

西之島では、噴火及び溶岩の流出が継続し新たに形成された陸地の拡大が確認されている。西之島の中心から概ね 6 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。

十勝岳では、2014 年 7 月頃から、山体浅部の膨張を示すと考えられる地殻変動の変化率が大きくなっている。62-2 火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴い弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

吾妻山では、14 日に火山性地震が 193 回発生し、28 日には火山性微動が発生した。大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

草津白根山では、湯釜付近の膨張を示す地殻変動が認められるほか、北側噴気地帯のガス成分にも活動活発化を示す変化がみられている。湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

阿蘇山では、中岳第一火口で、連続的な噴火が発生している。中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

霧島山（新燃岳）では、北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向がみられる。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）では、火山性地震が時々発生している。えびの高原の硫黄山から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

諏訪之瀬島では、爆発的噴火が 4 回発生するなど、活発な火山活動が継続した。火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。

蔵王山では、19 日に火山性微動が発生した。登山等で火口に近づく際には十分注意が必要である。

表 1 1 月 31 日現在の火山現象に関する特別警報・警報・予報等の発表状況
（※印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中）

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	御嶽山、桜島、口永良部島
	入山危険	西之島※
	レベル 2（火口周辺規制）	十勝岳、吾妻山、草津白根山、三宅島、阿蘇山、霧島山（新燃岳）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島※、霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）
噴火警報（周辺海域）	周辺海域警戒	福徳岡ノ場※
噴火予報	レベル 1（平常）	雌阿寒岳、樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、安達太良山、磐梯山、那須岳、浅間山、新潟焼山、焼岳、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、九重山、雲仙岳、霧島山（御鉢）、薩摩硫黄島
	平常	上記以外の活火山

※噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応がキーワードで示されている。



図 1 1 月 31 日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

表 2 平成 27 年 1 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報 第 1 号～38 号、 第 41 号～43 号	1 日～20 日 08 時 00 分 16 時 00 分 23 日、30 日 16 時 00 分	噴煙・微動の状況、地震回数等火山活動の状況。
		火山活動解説資料	5 日、9 日、13 日 16 時 00 分	噴煙・地震・微動・地殻変動の状況。現地調査の状況。
		火山活動解説資料	16 日 17 時 00 分	16 日に実施した上空からの観測結果。地震回数等火山活動の状況。
		解説情報 第 39 号、40 号	19 日 17 時 00 分 18 時 30 分	火山噴火予知連絡会拡大幹事会による見解。
		火口周辺警報	19 日 17 時 00 分	火山活動が低下してきていることから、噴火警戒レベル 3（入山規制）を切り替え、警戒が必要な範囲を火口から概ね 3 km の範囲に縮小。
		火山活動解説資料	19 日 17 時 10 分	
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	降灰予報	23 日 21 時 00 分	噴火に伴い、降灰が予想される地域を発表。
		解説情報第 1 号、3 号～ 9 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	爆発的噴火による大きな噴石の飛散状況。その他、地震回数等火山活動の状況。
		解説情報第 2 号	6 日 10 時 30 分	1 日頃から傾斜計及び伸縮計で山体の膨張と考えられる変化。

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する 特別警報・警報・予報・情報		概 要
		種類、号数等	発表日時	
口永良部島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、 入山規制)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。 現地調査の状況。
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～4 号、 第 7 号～10 号、第 12 号	2 日、5 日、9 日、 13 日、16 日、19 日、23 日、26 日、 30 日 16 時 00 分	噴煙・微動の状況、地震回数等火 山活動の状況。
		解説情報第 5 号～6 号	14 日 11 時 30 分 15 日 10 時 30 分	14 日に急増した火山性地震の状況 及びその後の状況等。
		火山活動解説資料	14 日 16 時 30 分	14 日に急増した火山性地震の状況 等。同日に実施した上空からの観 測結果。
		解説情報第 11 号	28 日 10 時 00 分	28 日の火山性微動の状況。
		火山活動解説資料	29 日 16 時 30 分	28 日の火山性微動等の状況。29 日 に実施した上空からの観測結果。
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～5 号	2 日、9 日、16 日、 23 日、30 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、 火口周辺規制)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	噴火・降灰等噴火活動の状況。孤 立型微動・火山性地震等の状況。 現地調査の状況。
		降灰予報	7 日 14 時 47 分 13 日 03 時 40 分 13 日 09 時 08 分 13 日 15 時 12 分 20 日 17 時 20 分 20 日 21 時 12 分	噴火に伴い、降灰が予想される地 域を発表。
霧島山（えび の高原（硫黄 山）付近）	火口周辺警報 (火口周辺危険)	解説情報第 1 号～8 号	5 日、9 日、13 日、 16 日、19 日、23 日、 26 日、30 日 16 時 00 分	地震回数等火山活動の状況。現地 調査の状況

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

各火山の 1 月の活動解説

【北海道地方】

雌阿寒岳めあかんだけ〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）〕

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

全磁力連続観測によると、ボンマチネシリ 96-1 火口南側の地下で温度の上がった状態が継続している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

十勝岳とからだけ〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

5 日に北海道警察が撮影した上空からの映像の解析、19 日に実施した上空からの観測（北海道警察の協力による）では、融雪域や赤外熱映

像⁴⁾ から 62-2 火口内でわずかな地熱域の拡大が認められたが、噴煙の状況に特段の変化はなかった。また、その他の火口では、地熱域⁴⁾ や噴煙の状況に特段の変化は認められなかった。

26 日に 62-2 火口付近のごく浅い所を震源とする火山性地震が一時的に増加したが、遠望カメラでは特段の変化は認められなかった。

十勝岳では、2006 年から 62-2 火口浅部の膨張を示すとみられる地殻変動が継続しているが、2014 年 7 月頃から、その変化率が大きくなっており、膨張がさらに浅い領域にまで及んでいる可能性がある。山体浅部の熱水活動の活発化を示すと考えられる常時微動の振幅レベルは、11 月頃から増大がみられている。このことから、引き続きごく小規模な水蒸気噴火の発生する可能性が高まっていると考えられる。

十勝岳では、ここ数年、山体浅部の膨張や大